



現在はさら地になっている「くにい」店舗



市内に空き地や駐車場が増えている



空き店舗対策が急がれる



「フラノ・マルシェ」のイメージイラスト



旧協会病院跡地でのイベント風景



イベントで賑わう新常盤通り



憩いの場となっているリバーモール

# 「フラノ・マルシェ」建設着工 来春4月にプレオープン!

中心市街地活性化事業がいよいよ本格化

特集

旧協会病院跡地に「フラノ・マルシェ」建設工事着工へ

このままでは中心市街地が…  
中心市街地の現状は?

富良野市の人口が緩やかな減少を続けるなか、中心市街地は郊外地に比べ特に深刻な状況になっています。中心市街地の人口の減少傾向は、生活の場としての機能が失われつつあることを示しており、「コミュニティ活動においても大きな影響を及ぼしていると考えられます。中心市街地では、空き地も目立つようになり、空き店舗や駐車場も増えてきました。小売店が減少し、中心市街地での販売額は大きく落ち込んでいます。車社会の発展により、旭川市などの近郊中核都市の大型店へ買い物に行くなど、生活環境の変化が要因と考えられます。また、高齢化が進み、後継者不在の小売店も少なくありません。さらに、協会病院の移転により五条通商店街の歩行者通行量も大幅に減少し、中心市街地の空洞化が進行しています。

市民が主役の計画策定作業  
「基本計画」の策定、そして認定へ

協会病院の移転に伴う跡地利用の論議のなかで、平成18年の「まちづくり三法（都市計画法、大規模小売店舗立地法、中心市街地活性化法の3つの法律の総称）」の改正を機に、富良野商工会議所、ふらのまちづくり株式会社が中心となり、「富良野市中心市街地活性化協議会」を設立。運営委員会を設置し、「新富良野市中心市街地活性化基本計画構想（骨子）」が取りまとめられ、市に提出されました。

市ではこれを受け、平成20年11月から平成26年3月までの5年5カ月を計画期間とする中心市街地活性化基本計画を策定、平成20年11月に内閣総理大臣から認定を受けました。

「コンパクト」を活かしたまちづくり  
中心市街地活性化の基本方針

【中心市街地観光客入り数】	
現状数値（平成19年度）	2,741人
目標数値（平成25年度）	2,900人
1日平均	
【中心市街地居住者数】	
現状数値（平成19年度）	3,094人
目標数値（平成25年度）	3,700人

観光地としてのブランド力を活かし、「魅力的」「利便性」に富んだ快適空間を中心市街地に創出。観光客を中心市街地に誘導するための施設の建設などによる「商業の活性化」と、市民が暮らしやすい「コミュニティ環境を整えた「まちなか居住」の推進。具体的な事業計画については、次頁で紹介いたします。

「フラノ・マルシェ」内のイメージイラスト



# 賑わいあふれる中心市街地へ

旧協会病院跡地周辺、「くいに」店舗跡地周辺、JRからの駅前周辺を、「まちの縁側」さまざまな人が世代を超えて集まり交流する場」として位置づけ、これら3つの拠点に集まった人々を商店街に回遊させることで、中心市街地に賑わいを取り戻します。

## 「フラノ・マルシェ」開発事業

「まちの縁側」づくりの中核施設として9月に着工したのが、ふらのまちづくり株式会社が実施する「フラノ・マルシェ」です（マルシェとはフランス語で「市場」という意味）。「フラノ・マルシェ」には富良野らしい景観を備え、ふらのの食材や加工食品を活

かした「食文化の発信基地」として集客施設を建設し、広場では「ファーマーズマーケット」などの季節感豊かなイベントを実施しながら、観光の滞留拠点として新たな賑わいを作り出します。また、まちの玄関口となるように、インフォメーション（情報案内所）機能を充実、「フラノ・マルシェ」から中心市街地へ観光客などを回遊させて、全体の賑わいを演出します。

- 主な施設機能としては、現在次のような構想があります。
- ① ぶらのファーマーズマーケット
  - ② 多目的広場（野菜市、フリーマーケット、既設のイベント）
  - ③ 飲食を中心とした小店舗モール（モール＝遊歩道風商店街）

- ④ スーパー・アジックス（土産物店）
- ⑤ タウン情報センター
- ⑥ スイーツ・カフェ



イメージ写真です。

## 「どんとまとめて!」まちなか活性化事業

中心市街地の魅力を高め、集客するうえで大事なことは、単に施設を整備するだけでなく、訪れる人を魅了し、引きつけるソフト面での充実です。

本計画では、既存の各種ソフト事業に加え、「まちの縁側」の3つの拠点と運動させた新たな取り組みを、富良野商工会議所が中心となり本年度より推進します。

- ① 「まちの話題情報お届け事業」各個店や団体などの情報を一元化し全国に発信

## 「ネーブル・タウン」開発事業

今後迎える超高齢化社会を考えたとき、車の利用に頼った郊外型の生活様式を見直す「歩いて暮らせるまちづくり」が大きなテーマとなります。

車なしでも生活できるコンパクトなまちづくりが求められ、今後はこのようなまちづくりが、高齢者にも若者にも、移住者にも便利で安心な暮らしをもたらすと考えられます。

本計画では、空き地や空き店舗が多い旧協会病院跡地北側での「ネーブル・タウン（仮称）」開発事業で、日常生活に必要な機能と居住空間を集積し、利便性に富んだ中心市街地を創出します。本年度は、市街地再開発準備会が設立され、ふらのまちづくり株式会社が主体となり現況調査と基本計画の策定を行います。

## 「まちなか」居住の推進に向けて

観光客の入り込みは時期により変動があり、中心市街地に活気を取り戻すためには、日常的に人の動きのあるコミュニティを形成する必要があります。そのため、



「フラノ・マルシェ」の建設が始まる旧協会病院跡地全景

- ② 「おもてなしづくり事業」中心市街地を回ってみたいくなるようなマップを作成
- ③ 「ギャラリー・ロード事業」商店街のショーウィンドーをギャラリー化して通りを散策する楽しみを提供
- ④ 「地域資源ふらのブランド開発研究事業」消費者購買調査を行い、ふらのブランド創作活動を推進

## 中心市街地活性化その他の事業

観光資源活用推進事業「北の国から」資料館・ぶらの広場  
「無頭川モール」(イベント空間)賑わい推進事業  
「グリーン・フラッグ」推進事業(地産地消推進)  
まちなかパーク&ライド事業など

これらの多くのソフト事業を積極的に推進し、それぞれの事業を結びつけることで、中心市街地の魅力を高め、活性化を図ります。

中心市街整備推進課

7 3 9 2 3 1 5